

インフルエンサー養成講座

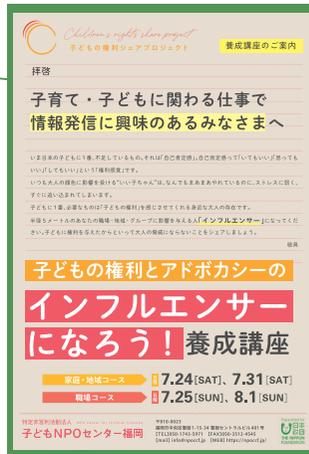
職場や地域に「子どもの権利」の大切さを伝え、共感者を増やして、インフルエンサーになっていただくための講座。アドボカシーの概念などを講義形式でお話して理解を深めるとともに参加者が楽しみながら学べる実践型ワークショップを行いました。

概要

- ◎ 開催実績
 - 家庭・地域コース：2021年7月24日、7月31日
 - 職場コース：2021年7月25日、8月1日
- ◎ 開催形式：① オンライン形式 ② オンデマンド ③ 対面形式
- ◎ 受講料：各コース 15,000円（税込）
- ◎ 定員：各コース 20名

広報

子どもの権利とアドボカシーについて受け入れ基盤を作りたい方々のためのプログラムであるため、講座内容が体系的なものであることが分かるようアカデミックな雰囲気のフライヤーに。
行政の子育て関連担当課、児童福祉施設、児童相談所などを中心に、福岡県内で約600枚を配布しました。



配布したフライヤーの表紙

参加者

- ◎ 2021年度参加者合計：42名
- *参加者属性
 - 行政関係者、児童福祉施設職員、NPO団体職員、教職員、主任児童員、議員など

「インフルエンサー養成講座」から（講座内容を一部抜粋）

なぜインフルエンサー養成講座を開始？

現代社会の構造に力の不均衡がある

インフルエンサーとして前向きな情報発信を意図的に行うには次の3つが必要

正確で安心できる知識	誰もが取り組める選択肢	ミスも共有できるつながり
------------	-------------	--------------

子どもアドボカシーインフルエンサーの必要性和、日常の中で実践していくために必要な状況について提示します。

子どもが間違ったことをしたときには心を鬼にして叱る必要がある？

多くの大人が経験したことがありそうな状況を例示し、それがアドボカシーの視点に立った時にどのように捉えられるかを問題提起します。

意外だったものは、どれ？

講座の中では、何度か参加者同士で意見を出し合う機会を設けています。その話し合いの中で、互いの意見の違いを認め合うとともに、同じ領域に興味を持つ仲間としての繋がりが高められるよう促していきます。

4種類のアドボカシー

- ピアアドボカシー
- フォーマルアドボカシー
- インフォーマルアドボカシー
- 独立アドボカシー

現在のアドボカシーの基本的な考え方について説明。4種類のアドボカシーが互いにどのように作用し、機能するかを示していきます。

アドボカシーの仕組み

子どもたち

- セルフ
- ピア
- 独立
- フォーマル&インフォーマル
- インフルエンサー
- 市民

独立した権限をもつ

アドボカシーが機能するためには、広範な人々の間に「子どもの権利」についての認識が必要であり、権利意識の土壌があって「子どものセルフアドボカシー」が成り立つことを説明します。

権利と義務は対立するもの？

子どもの権利を大人は保障する義務がある

権利

義務

大人は子どもに対して「生きているだけで権利がある」「話したいことを話し、聞きたいことを聞いてよい」と伝えていくことが重要である、と解説。

情動

感情

意向

意見

emotion

feeling

view

opinion

子どもから発信される内容を大まかに分けると、情動・感情・意向・意見などがあります。それらの形成・表明を支えるのは周囲の大人の役目だと説いていきます。

インフルエンサー養成講座 / 職場コース ～受講者の声～

「支援は支配になりやすい」という言葉にドキッとしました。私がこれまで良かれと思ってしてきた子育てや仕事、地域での活動が、もしかしたら支配的になっていたのではと、振り返りの時間になりました。そして、子どもにまつわる神話がどれだけ根拠のない不安感を与えてしまうのか。自分自身もいろんな神話に振り回されての子育てだったかもしれないですね。子どもたちのことをもっと信じて、おしゃべりを楽しみ、子どもたちを自由にすることに自信を持てる大人に。神話を壊すことで子どもの権利や話を聞く勇気を持ちたい！そんなインフルエンサーを目指すぞ。



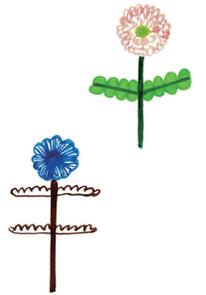
日常の保育現場の中で保育が作業として、流れていることが多いのではないかと振り返ることができ、大変有意義だったと思います。子どもの声を拾い、丁寧に聞き、子どもの「嫌」という気持ちに寄り添い、日常をサポートしていきたいと改めて感じました。



地域子育て支援拠点で毎日親子に接しています。ここまで内容の濃い研修を準備していただき感謝します。系統立てて子どもの人権・アドボカシーについて学びました。受動的に聴くばかりでなく、グループワークもあり、参加者の皆さんの意見にも気付かされることがたくさんでした。ビデオの学習も何回も見られるところがいいですね。これから、子どもの意見を聞き、子どもの権利を伝える役割を果たしていきたいと思っています。



どのレベルのインフルエンサーを養成したいのかが明確になったので、イメージができました。欲張るのではなく、身の周りに影響を与えることで、市民の力が向上するというメッセージが、こちらも気負わずに、肩肘張らずに、素直に吸収できそうだと思います。子どもの「権利」と聞いてもゾワゾワっとならない若い世代に「うん、うん、分かる！」と思ってもらえる福岡を作りたいと思います。



インフルエンサーって？というところから始まりましたが、自分の周りを耕していくことなのだと分かりました。さまざまな神話がある中で、がんじがらめになっている保護者や、声を聞かれにくい子ども達や、職業として子どもに関わる人々、皆がアドボカシーによって楽になるのではという可能性も感じました。自身が子育て中であることもあり、日常の中で権利を感じさせることを意識したいと思いました。同時に、支援は支配に繋がりがやすいこと。教育は目的でなく手法であることなど、ドキッとしたワードを常に心に留めておきたいです。



ロールプレイは苦手でしたが、実践が一番学べると感じました。「支援と支配」のお話は、本当に心に刺さりました。また、自分を見つめることの大切さも学びました。子育て支援の仕事柄、親子への対応が多く、どうしても親への支援が中心となって子どもが置き去りにされてきたように思います。そのことに気付いていてもなかなか改善できない現状に対して、私も声をあげていかなければいけないと気付かされましたし、そのための仲間を増やしていこうと思いました。



インフルエンサー養成講座 / 家庭・地域コース ～受講者の声～



これまで子どもとの関わりでモヤモヤしていたことが、今回の講座で「共感なんだ！」と胸にすんと落ちてスッキリしました。生後4ヶ月の子どもを育てていて、泣きかたや表情から意思が伝わってきて、かわいさと面白みを感じています。子どもの感情に対する共感を重ねていきたいと思っています。

インフルエンサーとして半径5メートルの人に押しつけでなく、前向きに発信して影響をもたらすことの大切さが分かりました。子育てに関しても科学的根拠に基づいてそのことを伝えていく、広めていくことを実践していきたいと思っています。ジェンダーの話題とは切り離すということも頭に入れておきたいと思っています。全ての子どもたちの権利や人権について伝えていきたいと思っています。



全く知識がない状態で参加しましたが、この活動の基本的な理念をよく理解することができました。自分も子どもや、その周囲の大人にアドボカシーについて話せるようになっていきたいと思いました。



インフルエンサーに必要なもの、正しい知識・正しいスキル・そして哲学！看護学生の頃に学んだ、頭と手と心と同じ！人との関わりでは、共通しているのだと思いました。そして、熱いハートと高いコミュニケーション能力、誰にも屈しない強い心。もっともっと正しい知識を身につけ、高いコミュニケーション能力で実践していくためには、私自身のさらなる進化が必要と思いました。



オンライン、ビデオ、対面と経験し、対面の大きさと必要性をあらためて実感しました。今、コロナ禍でのオンライン授業を経験している子ども達も同じように感じているのではないかと思います。対話では相手を感じ、傾聴する姿勢を大切にしていきたいと思いました。子どもにまつわる神話とその背景を知ることインフルエンサーとしてできることから始めていきたいと思えました。



対面で皆の前で発表したとき、無意識のうちに、自分の意見の方へ相手を取り込むような会話の仕方をしていた。そういう側面を自分が持っていることに客観的に気付けたのも今回の講座に参加して良かった点でした。今後は、インフルエンサーとして、今回の講座で得た知識と手法を半径5メートルの人に伝え、影響を与えられるように、そしていずれはより多くの人たちにアドボカシーや子どもの権利について発信し、子どもたちがのびのびと成長できる社会をつくることに寄与していきたいです。

